

広島大学
Study Abroad Program
報告書

期間:2014年3月2日(日)~2014年3月11日(火)

広島大学医学部保健学科作業療法学専攻

山元優輝

【はじめに】

2014年3月2日～3月11日の10日間、スウェーデンでの研修に参加させていただきました。この研修ではマルメ大学での講義、リハセンター・KUA・自助具店訪問を行いました。講義の内容は、マルメ大学の紹介、スウェーデンのヘルスケアシステム・福祉制度の発展、チームワークについての学習、日本とスウェーデンの比較、クリニカルスーパービジョン、INUの方々との交流等でした。

【学んだこと・感想】

私は海外に行ったことがなかったので見るものすべてが初めてで印象に残っていることは沢山ありますが、この中でも特に印象に残っていることは、自助具店訪問とKUA見学です。

自助具や福祉用具店は日本にもありますがなかなか行く機会がありませんでした。今回の研修でプログラムに含まれていて自助具店に初めて行くことができました。日本のADLの講義で自助具の種類や用途、対象の病気を習いましたが、初めて見る自助具も多くその用途を知ることができて良かったと思います。また実際に使い方を説明していただきとても分かりやすかったです。説明を受けている時にボタンエイドを使いましたが、使い方をきちんと理解できていなくて困ったのを覚えています。実際に臨床に出て働いていると、患者様やそのご家族からどのような自助具を使うべきかの助言を求められることが多くあると授業で聞きました。自分がどのような自助具があり、どんな使い方をするか、どの疾患に適応であるかを深く知らないと患者様に提供することはできないので、今回の訪問で学んだことからより知識を深め、今後病院で患者様やそのご家族の方に適切な自助具を提供できたらと思います。また作業療法士の中で病院、施設などで勤務している方や研究者や教員として勤務している方というのはよく聞きますが、作業療法士が自分の自助具店を経営しているということをあまり聞いたことがありませんでした。マルメ市でも自助具店は1つしかなく多いというわけではなかったのですが、そのような経営者という選択肢もあるということが分かりました。

KUA訪問ではシミュレーション用のロボットを用いた訓練の見学やスウェーデンの学生との交流をすることができました。また、チーム医療の講義も受けチームワークの大切さを学ぶことができました。他職種間で情報を共有することで患者様のことをより深く理解し介入の向上ができるのではないかと考えました。私は実際にIPEのプログラム時にKUAで行われているシミュレーションを行わせていただいたのでKUA訪問にはとても興味がありました。ロボットは別室で音声繋がっており、会話が可能で、バイタルもとれました。また瞳孔も動き、肺の音が聞くことが可能であるなどと本物の人間のようなものでした。このロボットがあれば様々な場面を想定して訓練できるので、いざ予期せぬ事態に遭遇しても冷静に対応できると思いました。また日々場を想定して他職種間が協力した訓練を行わなければスムーズに事が運ばないということや、チームワークを駆使したら出来たはずの

ことが出来なくて患者様に迷惑をかけてしまうということもあると思うので私たちも KUA のようなシミュレーションを積極的に行うべきだと考えました。OT では 4 年次に臨床実習に行かせていただくのですが 1 人で実習に行くので学生が Dr・Ns・OT・PT がチームで患者様に関わる機会がありません。KUA の学生は 1 人の患者様に対してチームプラン、ラウンジをし実習後に他職種間で情報の共有をしていました。日本では病院での実習の体制や時間の関係で KUA のような実習はできませんが、他職種の方が何をしているかを知り、チームで患者様にアプローチすることはとても大切だと思います。日本で実際にこのようなチームで訓練することは時間的に難しいと聞きましたが勉強会を開き、チーム医療を学ぶ機会を積極的に取り入れるべきだと考えました。

【講義に関して】

・ The Swedish Health Care Systems

この講義では子どものヘルスケアを主に学習しました。現在課題となっている子どもの死亡率減少、病気や障害に対するサポート、親になるときどこに相談すべきか、子どもに対する親のあり方などを討論しました。私は、子どもは親によって将来が決まるという考えを持っています。子どもは育つ環境によってその後どんな人間になるかが決まると思うからです。実際に家庭内暴力を受けているとその子どもも暴力的になってしまったり、ネグレクトを受けていると情緒が安定せずうつ病になってしまったりという例をよく見ます。この講義では親が子どもに与える影響は大きく、親は責任を持たなければならないということをおっしゃっていたことが強く印象に残りました。

・ Teamwork and Collaborative Learning

この講義ではチームワーク、チーム医療に関して学習しました。印象に残っていることは COOPERATION と COLLABORATION の違いについて討論したことです。私はそれらの違いを意識したことがありませんでした。講義では、前者は相互作用がなく、後者は相互作用があるとのことでした。個々の職種だけで介入を考えず、他職種間で情報を共有し様々な視点から患者様に介入することの必要性を述べておられました。また私は講義で聞いた Peer Learning という言葉が印象に残っています。Peer の意味は「同僚」という意味で、Peer Learning とは学生同士で自らお互いに学習することです。教授から学ぶことも大切だと思いますが、学生同士で学習することでお互いに知識を深めることが可能であり、また学生同士だと些細なことでも聞き易く、自発的に学習しているので印象にも残りやすいのではないかと思います。

‘The Good Team ‘とは何かということも学習しました。①5～8 人であること②能力を補い合う③同じ目的を持つ④相互に同じ責任を持つ⑤1+1=3(個々よりもチームで行うと相乗効果がある)ということです。今後チーム医療に携わる時には以上のことを意識したいと思います。また 1 年生時に医学部薬学部合同ゼミというのがありましたが、より専門的

なことを学習した後に行うべきなのかなと思いました。合同ゼミのように他学部共同で学習する機会をより積極的に取り入れるべきだと思いました。

・ A model for Clinical Supervision

Clinical Supervision とはバイザー 1 人と学生 3～4 人のグループで患者様のケアの経験や実習内容を話し合います。そこでは自分の体験したことや良かったこと辛かったことを周りの皆に話し、共感することを大切にしながら進めていきます。本講義ではバイザーが 1 人の学生に対して、実習で辛かったことを話すようにと指示しました。次にバイザーはその学生が語ったことに対し、どう感じたかを周りの皆に訪ねました。このように 1 つの話題に対して周りのメンバーの意見が述べることで、そのときどう対処すべきであったか、本人では気付けなかった考え方があることを学ぶことができ充実した振り返りができます。このような場を設けることで自分以外の考え方を知ることができる、情報を共有できる、話すことで心理的ストレスを減少させるなどの効果があるのではないかと考えます。

【海外に行ってみて感じたこと】

私は海外に初めて訪れましたが、現地の人々の方々を見て感じたことは、とてもいきいきしていて楽しそうであるということです。仕事をやらされているのではなく、楽しく行っているように見えました。全てではないですが、お店の多くは 11 時に開き、17 時には閉めています。日本の労働時間は 8 時～17 時でそれに加えて残業がありスウェーデンに比べて長く、自分の時間がないように思います。スウェーデンの人々は自分の時間を楽しみ、適度にストレス発散しながら仕事を楽しんでいるように思いました。もちろん日本にもそのような方はいらっしゃると思いますが、臨床実習に出たときに、社会人の方は早朝に出勤し夜遅くまで残業をしていたという現状を見たことや、1 日のほぼ全てが仕事で家に帰ったら寝るだけだという人の話を聞いたことから、日本の大人の方には時間的な余裕が不足していると感じました。スウェーデンでは税金は多く納めなければなりません、教育や医療、その他日常生活に必要なことに関して目に見える恩恵を受けているので税金を「納めて」いるように思いました。日本では税金を払っても恩恵を受けていると感じている人は少なく税金を「取られて」いると感じている人が多いと思います。社会全体が国民を援助しているから一人ひとりに余裕があるのかなと思いました。

また INU の方々との交流会ではなぜスウェーデンは移民の方々を援助できるのかと質問をしたところ、スウェーデン人はワイドな心を持っているからだとおっしゃられました。もちろんそれ以外の要因が沢山あると思いますが、ワイドな心を持つということは大切だと思います。日本は移民もなく海で囲まれていて比べる国がないので世界のこと、或いは自分の国のことでさえ詳しく知らなくても生活することができます。その点で日本は閉鎖的であると思います。本研修では日本とスウェーデンの比較をよく行いました。いかに自分が自分の国のことを理解していなかったかが分かりました。自分の国の制度がどのように

発展してどのような変遷を遂げてきたかを知ろうとする良いきっかけになったと思います。またスウェーデンが今なぜ福祉国家と呼ばれているのか、医療や福祉の制度がどのような変遷をしてきたのか、どのような歴史的背景があるのかなどより詳しく知りたいと思いました。そのようなことを理解しておく両者の比較ができ、良い点や悪い点に気付けると思いました。

【最後に】

今回の研修全体で感じたことは沢山あります。1番大切だと感じたのは自分の国の制度や歴史を知ることが大切であるということです。講義では制度を学ぶ上でどのようにしてその制度ができたか、制度がどのように変遷したか、またその背景には何があったのかをおっしゃっていたのでそれを知るということは重要だと感じました。また自分の国のことを知らなければ他国と制度の比較ができないことや、日本や他国の制度で何が良い点で何が悪い点であるかを知ることができないので、まずは外国のことよりも自分の国のことを理解すべきだと考えました。

研修の目標として英語能力の向上を掲げていましたが、研修前に比べ挨拶や振る舞い方が分かり、海外の方と会話をするに対して緊張することがなくなったように思います。英語を聞いて理解することがまだまだ苦手ですが英語をより理解できるようになったら講義内容も理解でき充実すると思います。さらに英語能力を高めようとモチベーションが高まりました。

今回の研修で、二井谷先生、小林先生、野村先生にはとてもお世話になりました。3人の先生方のおかげで事故なく無事に充実した研修を行うことができました。今回の研修で学んだことを今後の自分に活かせるように努力しようと思います。本当に感謝しています。ありがとうございました。